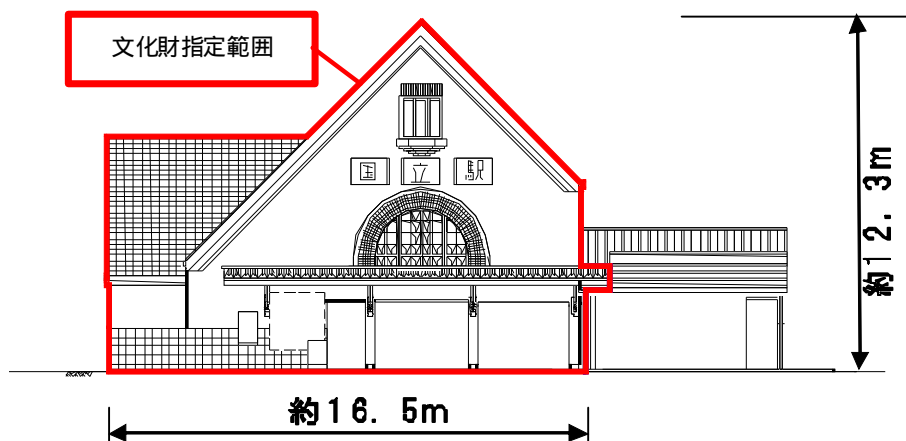
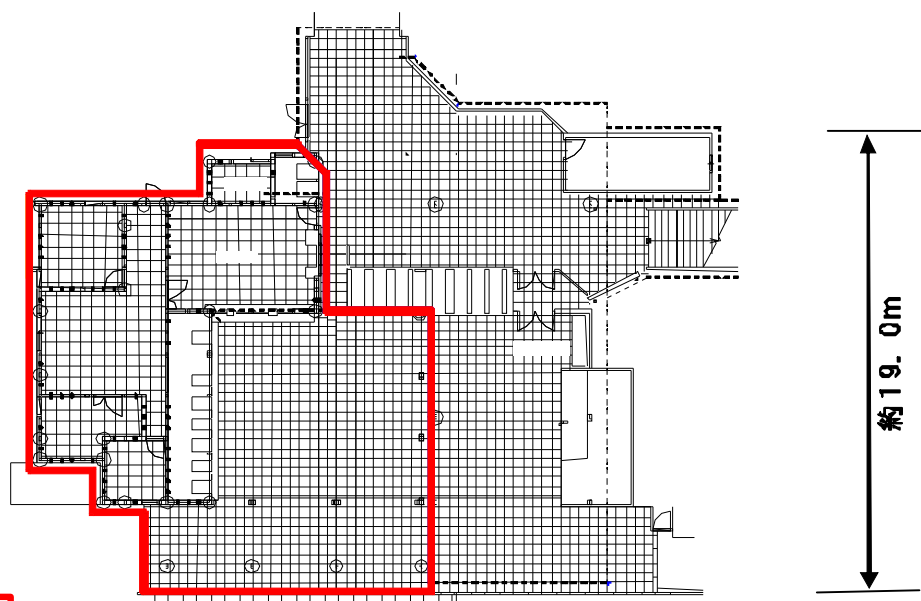


旧国立駅舎の活用(案)について

旧国立駅舎は都内有数の歴史ある駅舎



旧国立駅舎 南立面図



文化財指定範囲

約220㎡

旧国立駅舎 平面図

旧国立駅舎の特徴

国立を開発した箱根土地株式会社が建物をつくり、鉄道省に寄附した請願駅です。

旧国立駅舎は都内有数の歴史ある駅舎です。

国立駅は大正15年の竣工で、解体前は大正12年の原宿駅舎に次いで、現存する2番目に古い木造駅舎でした。(同時期の駅に武蔵境駅などがあります)。

旧国立駅舎に見られる三角屋根の個性的なデザインは、その後、多くの駅のデザインの手本となりました。

大正時代の駅舎が持つ親しみやすいスケール感を伝えてきました。また、建物の構造の一部に、日本の八幡製鉄所をはじめ、イギリス、ドイツ、ベルギーなどにつくられた古レールが用いられており、当時の鉄道建築の作られ方を知るうえで貴重な史料となっています。

旧国立駅舎の活用(案)について

解体された経緯と保存

旧国立駅舎は都内有数の歴史ある駅舎であり、国立市のシンボルとされていました。しかし、平成18年に中央線連続立体交差事業の影響により解体を余儀なくされ多くの市民に見守られ、また、惜しまれながら解体されました。

解体された旧国立駅舎の部材については国立市内の保管庫で保存しています。

活用について

市は文化財として復原し、情報発信や情報交流機能を持つ文化系施設として活用することを考えています。

国立の歴史を展示するコーナーや、国立市の情報発信を図る情報コーナーを設け、国立市の歴史・文化について触れ、学び、そして地域が賑わう拠点施設として整備する考えです。

